

令和5年度 学校評価シート

<学校経営方針の重点>

1 確かな学力の向上 2 心の教育の推進 3 健やかな体の育成 4 地域と共に歩む学校づくり

青梅市立吹上小学校

[資料2]後期

項目	経営目標	具体的な方策 (対応する学校経営案プロット)	評価(A,B,C,Dは%) 平均はA=4,B=3,C=2,D=1で算出			分析結果	改善策	学校関係者評価								
			教職員	保護者	児童			コメント	学校の見解と今後の方向性							
確かな学力の向上	「高(知)」… 基礎的・基本的な内容を身に付け、視野を広げ、知性を高める。	①生きて働く「知識・技能」を習得するため、各教科の基礎的・基本的知識及び技能を身に付け、思考力、判断力、表現力を育み、主体的に課題を解決する学習態度を養う。また、家庭と協力し合い家庭学習が習慣化できるよう徹底を図っていく。	A	29.4%	38.7%	33.1%	教職員・保護者・児童ともに9割がAB評価を占めている。学校と家庭が連携して家庭学習を行ったり、それに対して児童が習慣化できていると感じたりできていることによるものと考える。	引き続き、家庭学習を計画的に行い家庭学習の習慣化に努める。一部、習慣が身に付かない児童に対して個別の対応を取る。	学習については、国語を主とした児童の取り組みが感じられる。	学校では引き続き、丁寧な指導を行っていく。また、家庭学習の習慣化に努めているが、個別の支援が必要な児童に対しては、家庭の協力を仰ぎながら、学習支援員やステップアップクラス支援員とも協力して指導していく。						
			B	58.8%	54.7%	55.0%										
			C	11.8%	4.7%	8.7%										
			D	0.0%	0.0%	2.9%										
			E	0.0%	1.9%	0.4%										
		②言語環境の整備と言語活動の充実を図り、言語に対する関心や理解を深めるとともに、言語能力を育て、その力を基に他教科、他領域の学力向上、児童の思考力・判断力・表現力等を育成していく。	A	23.5%	38.7%	37.6%	前期より教職員の評価が高くなったこととして、日記や作文などの言語活動の取組を評価したにもよると考えられる。一方、保護者のC評価が後期に微増している。学校の取組が十分に伝わっていないものによりと考えられる。	国語を中心として様々な教科で言葉を使って説明する、友達と話し合っ解決するなどの言語活動に取り組み。その内容を発信することで、保護者への周知を図る。			子供同士、きちんと話し合っている様子が見られるので、言葉の大切さが理解されていると身受けられる。	各学級では、国語を中心として様々な教科で言語環境の整備と言語活動の充実を意識して授業が行われている。次年度も継続していく。また、学校図書館司書、図書ボランティアとの連携を通して、読書活動の充実を図っていく。				
			B	70.6%	49.1%	47.9%										
			C	0.0%	10.4%	9.1%										
			D	0.0%	0.0%	3.7%										
			E	5.9%	1.9%	1.7%										
		③教科等ごとにICTを効果的に活用する学習活動を模索し、個別最適化された学びの実現に取り組む。GIGAスクール構想の効果的な活用をめざし、通信ネットワークを含む校内LAN整備計画を進める。	A	70.6%	24.5%	59.9%	教職員がA・B評価だけとなった。今年度より電子黒板があおぞら学校に導入されたこと校内で電子黒板の活用研修を行ったことが要因として考えられる。保護者のE評価が前期と変わらず2割いることから、効果的に活用している学習活動の様子が伝わっていないことが考えられる。	来年度も継続して、電子黒板等のICTに関わる研修をしていく。また、授業のICT活用の様子を学校だよりやHPで周知する。					ICT教育の保護者回答がEが22%ある。学校でタブレットをどう活用しているのかを知っていただくことが課題。HP以外で学校でのICT活用の様子を伝えてほしい。	教員の研修は来年度も継続して行っていくとともに、活動事例を校内で共有し、ストックしていく。また、授業で効果的にICTを活用している学習活動の様子を学校だよりやHPで周知していく。		
			B	29.4%	38.7%	29.3%										
			C	0.0%	9.4%	6.6%										
			D	0.0%	4.7%	2.5%										
			E	0.0%	22.6%	1.7%										
豊かな心の育成	「やさしく(徳)」…やさしくよりよく人と接する心を育て、豊かな精神を身に付ける。	④心の教育を充実させ「一人一人の輝き」と「共に生きる力」を導く。日常の取組として、あいさつと、くん・さんの呼称を徹底する。	A	64.7%	39.6%	34.7%	前期評価と比べ児童と保護者のA・B評価は向上している。また、教職員のA評価がかなり上がっているため、おおむね達成できている。	全校朝会や学級指導等で日常の指導を継続的に行っていく。また、児童の言動でおかしいと感じた時にはその場で指導することを心掛けていく。	日常的に、登下校中の子どもに会うと、子供の方からよく挨拶をしてくる。あいさつは、習慣的にできていると思う。「くん・さん」は難しい様子であるが、あだ名で呼んでいる姿がないので、よい傾向であると思う。	教職員と児童間では、ずいぶんしっかりとあいさつが交わされるようになってきている。児童同士によるあいさつや、くん・さんの呼称については、継続的に指導を行っていく。また、家庭・地域と連携して進めていく。						
			B	29.4%	35.8%	38.4%										
			C	5.9%	14.2%	18.2%										
			D	0.0%	2.8%	6.6%										
			E	0.0%	7.5%	2.1%										
		⑤全教育活動における豊かな体験活動と特別の教科 道徳との関連を通して、「生命尊重」「思いやり」「規範意識」などにおける児童の道徳性を育成する。	A	23.5%	34.0%	44.2%	前期と同様に、それぞれのA・B評価が8割を超えており、おおむね達成できている。	友達の見解を共有するなど、対話的な道徳の授業を目指して、今後も継続していく。			学校では、「考え、議論する道徳」学習を行うことで、自分の考えを整理したりまとめることが苦手な児童にも、良い影響を与えている。道徳授業地区公開講座を通して、さらに家庭や地域との連携を深めていく。					
			B	70.6%	50.0%	40.1%										
			C	0.0%	0.9%	10.3%										
			D	0.0%	0.0%	3.7%										
			E	5.9%	15.1%	1.7%										
		⑥児童相互による縦割り班活動などを通して、「自分の大切さ」とともに、他の人の大切さを認める」態度を育む。	A	64.7%	46.2%	48.8%	前期と比べてそれぞれのA・B評価が向上しており、教職員と児童の9割を超えているので、おおむね達成できている。	児童と教職員内の評価は上がっているため、今後も縦割り班活動を引き続き継続していく。				道徳公開授業を見ていて、子供の発言をよく聞いていると、人間を尊重した上での言葉がたくさんあった。学校の経営理念が影響されていると感じた。	コロナ禍に中断されていた縦割り班活動が、今年度は、年間計画に沿って進められているため、児童と教職員の評価が上がっていると考えられる。異年齢の関わり方については、しばらく続けていく必要がある。			
			B	35.3%	45.3%	35.1%										
			C	0.0%	2.8%	10.3%										
			D	0.0%	0.0%	4.1%										
			E	0.0%	5.7%	1.7%										
豊かな心の育成	⑦人権尊重の精神のもと、いじめ・差別や偏見を許さない指導を全校体制で行い、児童の人権感覚を高め、自己肯定感を培う。	前期と比べてそれぞれのA・B評価が向上しており、さらに9割を超えているので、おおむね達成できている。	A	47.1%	30.2%	57.4%	引き続き自己肯定感を高める取り組みを継続していく。また、人権尊重の精神を高めるために、いじめに関する授業を行うなど、引き続き日々の授業実践を通して指導していく。	縦割り班活動については、今後も継続していくとより達成できると思う。	評価結果から日々の授業や生活場面における指導の成果が見られる。放課後や学校外での様子を中心に、保護者等からの情報にも耳を傾けて協力して指導を行っていく。							
			B	52.9%	55.7%	33.1%										
			C	0.0%	2.8%	5.8%										
			D	0.0%	0.9%	2.1%										
			E	0.0%	10.4%	1.7%										
		健やかな体の育成	「たくましく(体)」…健康・体力の向上を図り、健康で強い意志を育てる。	⑧体育指導や体育的行事などの充実を図る。マラソン週間やなわとび週間で体育科の指導と関連させ、運動の日常化を図るとともに、体力向上・健康増進に努める。	A	41.2%	45.3%			57.0%	A・B評価の割合が教職員・保護者で9割、児童で8割を超えている。しかし、児童のC評価が1割あり、休み時間に校庭に行かず、運動ができていない子がいると考えられる。			友達同士で外に行く声掛けをし合ったり、クラス遊びを取り入れたりと、外に行く機会を増やしていく。	体を動かすことは大切であるが、苦手な子がいるのも事実。	休み時間の外遊びは定着してきたが、運動する時間を確保するために、次年度は昼休みを5分長設定する。なわとび週間・マラソン週間や全校外遊びが定着してきている。今後も継続していく。
					B	58.8%	45.3%			26.9%						
					C	0.0%	4.7%			11.2%						
					D	0.0%	0.0%			4.1%						
					E	0.0%	4.7%			0.8%						
				⑨安全指導の徹底を図り、自らの生命は自分で守る態度や能力を培う。	A	58.8%	41.5%			62.0%	安全指導は自分の生命を守るという観点から、100%により近づけていく。月ごとの安全指導を指導していくとともに、日常の安全指導をより徹底していく。	自治防災の視点からも、どういう訓練をしていけばいいのか、子供たちに考えさせる防災教育が必要だと考える。	有事の際に落ち着いて行動できるように、年間計画に従って全校で安全指導や避難訓練を実施していく。また、校外での行動については、家庭や地域とも連携しながら、児童自らが考え判断し、安全に過ごす力を養っていく。			
					B	41.2%	50.9%			29.8%						
					C	0.0%	2.8%			5.4%						
					D	0.0%	0.9%			2.5%						
					E	0.0%	3.8%			0.4%						
特別支援教育の充実	校内の組織体制を活用して、特別支援教育の理解と推進を図る。			⑩特別支援学級・特別支援教室設置校の特色を活かし、校内の組織体制を活用して、特別支援教育の理解と推進を図る。	A	64.7%	35.8%	38.8%	教職員のA評価が1/3から2/3へと増加した。保護者のAB評価に変化はあまりないが、E評価が若干減少した。運動会や交流学習など学年で取り組む活動を通して、理解が深まってきたと考える。	引き続き交流の機会を増やし、学校だよりやホームページ、入学説明会、保護者会などを活用し周知していく。	不登校対策が必要。予防的な対策も、不登校児への対症的な対策も必要。放課後、特別支援学級の子と通常級の子が垣根なく、よく遊んでいる様子が見られる。こういうのが当たり前になっていくことが、地域に住む者としては、うれしい。			行事や教科を通して、あおぞら学級と通常学級との学習が日常で行われているので、児童間では、同年齢として関わっている。今後は、障害に対する理解教育を推進していく。		
					B	29.4%	49.1%	37.2%								
					C	5.9%	5.7%	18.6%								
					D	0.0%	0.0%	3.7%								
					E	0.0%	9.4%	1.7%								
		家庭や地域との連携	学校と共通の目標の実現に向かって家庭や地域社会との連携を図る。	⑪HPやメール配信を通して、教育活動の状況や情報を家庭や地域に発信していく。	A	35.3%	38.7%	28.9%	教職員はAB評価だけとなり、おおむね達成しているといえる。保護者評価は前期と変わらずAB評価が合わせて8割を超えていておおむね達成している。児童評価のCが2割を超えている。	ホームページ更新の作業が滞りなく更新を進めている学年が増えているため、引き続き継続できるような体制を整える。					地域の方を学校に呼んで、子供といっしょにのづくりや料理、地域散策をする活動は、とても意義があると思う。	保護者に教育活動がより伝わるように引き続きHPと学校だよりの充実を図っていく。また、発信した内容について家庭で話題に取り上げてもらえるよう合わせて発信・周知していく。
					B	64.7%	46.2%	40.5%								
					C	0.0%	12.3%	20.7%								
					D	0.0%	2.8%	7.9%								
					E	0.0%	0.0%	2.1%								
				⑫学校便り、学校公開、道徳授業地区公開講座、地域の教材化や地域の教育力の活用などを通して、相互の連携・交流を密にし、信頼関係を深めていく。	A	17.6%	34.9%	41.7%	肯定的な意見が9割を超えており、概ね達成できていると言える。学校だより、学級だよりで情報発信している、情報の共有もできている。	児童のCが12%あるので、地域の方による講師を招くだけでなく、地域に学校から出向いて、学ぶ機会を増やしていきたい。		学校公開、道徳授業地区公開講座は、昨年よりも公開の規模を拡大して実施できた。また、地域の教育力を活用した学習を、新設や再開の形で計画・実施することができた。次年度につながるよう整理していく。				
					B	76.5%	57.5%	40.5%								
					C	0.0%	3.8%	12.0%								
					D	0.0%	0.0%	2.9%								
					E	5.9%	3.8%	2.9%								
⑬家庭との連携を図りながら、「学年×10分の学習」の習慣を定着させるとともに、学校より適切な宿題(課題)を出し、家庭学習(宿題+自主学習)の充実を図っていく。	A			23.5%	32.1%	41.3%	教職員はAB意見が9割、保護者・児童共に8割を超えており、おおむね達成しているといえる。保護者・児童ともにCD評価が1割6〜7分なので、改善策が必要であると考える。	学年間で情報共有しながら、「読み・書き・計算」の宿題量を調整していくとともに、「自主学習」を計画的に進めていけるよう、発達段階に応じた、段階的な自立を考えていく。	先生方の自己評価が、堂々とAが付けられるよう、頑張してほしい(保護者の評価は高いのに)。子供・保護者と先生の評価の差が見られるところに、改善点があるので検討してほしい。	年度初めや夏休業前など定期的に学年ごとに相談し宿題の量になっているのかを検討しながら共有を図り進めていく。家庭学習に取り組めない児童について、保護者に家庭学習の重要性と協力を呼びかけ連携していく。						
	B			70.6%	49.1%	40.1%										
	C			0.0%	16.0%	13.2%										
	D			0.0%	1.9%	2.5%										
	E			5.9%	0.9%	2.9%										